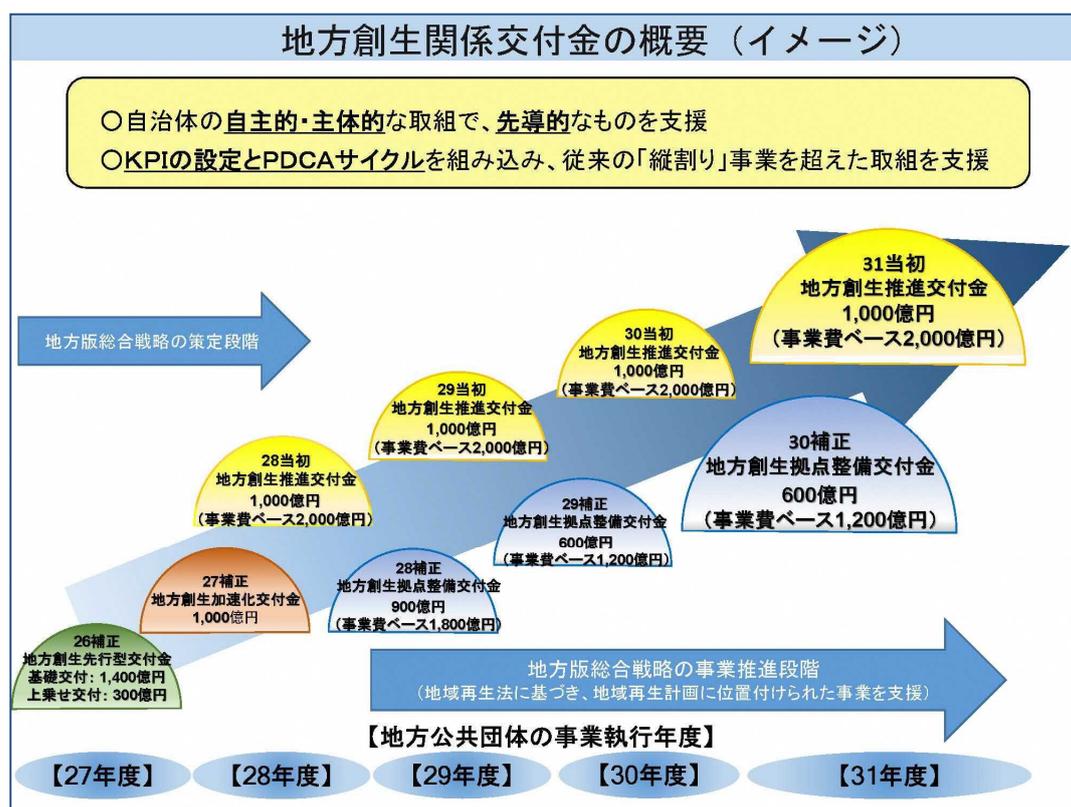


地方創生関係交付金等事業の進捗状況 令和元年度（2019年度）

1 地方創生関係交付金の概要

地方版総合戦略の策定および実施に当たり、国が、地方公共団体が適切な効果検証の仕組みを伴いつつ自主性・主体性を最大限に発揮できるようにするための財政的支援として、次のような交付金を創設している。



2 交付金事業の検証について

交付金事業については、事業の推進状況を測るために重要業績評価指標（KPI）を設定することとなっている。その上で、KPIを用いて事業の進捗・達成状況等により検証を行うとともに、学識経験者等の第三者の意見を聴取することが国から求められている。

3 令和元年度（2019年度）地方創生関係交付金等事業一覧

①地方創生推進交付金

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
1	ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業	15,026,000円	7,513,000円	3

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
	三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業※ ※神奈川県および三浦半島4市1町による連携事業	—	—	4
うち、横須賀市実施事業				
2	訪日外国人アクセス環境向上事業	4,378,000円	2,189,000円	6
3	住むまち横須賀魅力体験・発信事業	13,300,221円	6,650,110円	8
4	マリンスポーツによるまちづくり事業	9,100,000円	4,550,000円	10

②地方創生拠点整備交付金

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
5	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業 *事業実施は平成29年度（2017年度）	— (50,050千円)	— (24,895千円)	11

③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）※

シート No.	事業名	対象事業費	寄附額	頁
6	ドローン産業集積推進事業	3,695,954円	(1,000千円)	13

※国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、寄附額の3割を当該企業の法人関係税から税額控除する制度。従来からの損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、寄附額の約6割が軽減される。

4 事業別調書

検証シート 1

		①地方創生推進交付金				
事業名	ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業	担当部課	文化スポーツ観光部文化振興課			
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する (3)①集客の促進と交流拠点の創出による市内消費の拡大			中柱	(3)	小柱 ①
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 市内に点在する近代歴史資産を整備することで、その価値に対する理解の向上を図るとともに、拠点から拠点へと回遊性向上を目指した「ルートミュージアム」の構築を推進する。 ルートミュージアムの中核拠点となる「(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンター」の建設を契機として、中心市街地に人を呼び込み、他の地域へ誘導するため、歴史や文化、グルメなど観光客の来訪動機に合わせた事業を展開し、にぎわいの創出を推進する。 					
事業内容 (交付金対象)	近代遺産デジタルコンテンツ等の制作、ペリー記念館設備の充実、ルートミュージアムのガイド育成、走水低砲台跡地の整備					
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R02(2020)	総事業費
計画額			13,376,000 円	15,026,000 円	6,099,000 円	3,4501,000 円
実績額			13,375,120 円	15,743,900 円		29,119,020 円
事業実績 (2019年度)	<ul style="list-style-type: none"> 近代遺産デジタルコンテンツ等製作として、ペリー来航(浦賀と久里浜)、千代ヶ崎砲台跡、走水低砲台跡の4つのVRコンテンツを製作した。 ルートミュージアムのガイド育成として、2つの取り組みを行った。 <ol style="list-style-type: none"> ガイド団体と市内の法人及び個人のタクシー協会を対象とした講習(4回) 講習を受けたガイド団体がツアー客の接遇を行うテストツアー(1回) 					
重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果						
	項目	年度	申請時	H30(2018)	R01(2019)	R02(2020)
KPI①	市内東京湾側の観光客数	目標	—	546 万人	553.5 万人	563 万人
		実績	538 万人	546 万人	600 万人	
KPI②	市内東京湾側の観光バス利用者の観光消費額	目標	—	1,213,504 千円	1,312,500 千円	1,411,495 千円
		実績	1,036,273 千円	1,135,398 千円	969,324 千円	
KPI③	汐入駅周辺地区拠点施設周辺内の商店街空き店舗率	目標	—	7.8%	7.4%	7.0%
		実績	8.0%	6.5%	4.9%	
KPI④	VRコンテンツの利用者数	目標	—	200 人	500 人	2,000 人
		実績	0 人	0 人	8,211 人	
KPIの分析	<ul style="list-style-type: none"> 三笠公園、ヴェルニー公園、観音崎公園の3つの公園を合わせた観光客数が前年比約14%増加(約415万人→約471万人)しており、KPI①において目標を大きく上回る一因となったが、KPI②については前年比約15%減少しているため、目標を下回った。 VRコンテンツは令和元年度に公開し、公開とともにポスターやチラシを制作して認知度向上を図り、目標を上回る利用があった。 					
基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> ペリー記念館への入館者数は前年度比約17%増加(約6万人→約7万人)しており、平成30年度に行った展示設備の充実が入館者数増加の要因の一つであったと考えている。 					
今後の方向性	2020年度の実施状況			今後の事業の進め方		
	<ul style="list-style-type: none"> VRコンテンツの運用を行う。 令和3年2月に開館予定の「(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンター」の開館セレモニーを実施する。 ルートミュージアムを紹介するパンフレットを制作する。 			ルートミュージアムの中核拠点となる「(仮称)横須賀市近代遺産ガイダンスセンター」の開館を令和3年2月に予定しているが、ガイダンスセンターや走水低砲台等の近代歴史遺産の認知度を上げる取り組みを行い、興味や関心を持った人が市内に点在する近代歴史遺産を周遊する仕組みづくりを行うことで、にぎわいの創出を目指す。		

(検証シート 2～4)

①地方創生推進交付金

事業名	三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業	担当部課	—
-----	---------------------	------	---

- * 神奈川県および三浦半島4市1町による連携事業（事業計画等の取りまとめは神奈川県）
 * うち、本市実施事業は、以下「事業計画」欄に下線で示した3事業
 * 本市実施事業の具体的な内容は、7～11ページの「検証シート2」～「検証シート4」に掲載

事業概要	<p>三浦半島は、東京、横浜などの大都市の通勤圏にありながら、海あり、山あり、歴史ありという他の地域にはない優位性を持っている。こうした優位性を活かし、三浦半島の優位性を半島全体のイメージとして、プロモーションし、かつ、県・市町の様々な施策を訴求対象別の施策としてまとめあげ、事業効果を最大化する「司令塔」として三浦半島地域連携DMOを設定することで、半島全域の観光プロモーションやマーケティングと戦略推進などによる交流人口の増加を進める。</p> <p>また、三浦半島での充実したライフスタイル等の情報について拠点を整備して発信することにより、移住促進による人口減少の歯止めを図る。</p> <p>これらの取組みを支えるものとして、基盤づくりや地域資源の磨き上げおよび地域課題への対応を市町が行うことにより、民間主導による地域経済の循環を生み出す先導的なモデルづくりを進めるものである。</p>
事業計画 (2019年度)	<p>I 三浦半島地域連携DMOを司令塔としたプロモーションの推進</p> <p>1 DMOによる事業全体の下支え</p> <p>ア 三浦半島DMOプロモーション事業【県】</p> <p>II 観光による交流人口の増加</p> <p>1 観光客（全般）への訴求</p> <p>ア 海の駅‘うらり’セールスプロモーション事業【三浦市】</p> <p>イ 回遊性向上のための環境整備事業【三浦市】</p> <p>ウ 観光客訴求イベント事業【葉山町】</p> <p>2 観光客（海志向）への訴求</p> <p>ア 海の魅力向上に向けたイベント【鎌倉市】</p> <p>イ ファミリー層に訴求するイベント【逗子市】</p> <p>3 観光客（健康志向）への訴求</p> <p>ア ヘルシータウン事業【鎌倉市】</p> <p>4 観光客（外国人）への訴求</p> <p>ア <u>訪日外国人アクセス環境向上事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート2 (p.7)</u></p> <p>III 移住促進による人口減少への歯止め</p> <p>1 半島外移住（移住志向）への訴求</p> <p>ア 半島ライフ発信事業【県】</p> <p>イ <u>住むまち横須賀魅力体験・発信事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート3 (p.9)</u></p> <p>ウ 鎌倉ライフプロデュース事業【鎌倉市】</p> <p>エ 三浦半島ずしトライアルステイ・魅力体験イベント【逗子市】</p> <p>オ トライアルステイ・リノベーションまちづくり事業【三浦市】</p> <p>カ テレワークのモデル事業【逗子市】</p> <p>キ <u>マリンスポーツによるまちづくり事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート4 (p.11)</u></p> <p>IV 基盤づくりや地域課題への対応</p> <p>1 基盤整備</p> <p>ア 浜の活力推進事業【三浦市】</p> <p>イ ヨット乗船体験【葉山町】</p> <p>2 国外企業への訴求</p> <p>ア 三浦漁港グローバルブランディング戦略実践事業【三浦市】</p> <p>3 域内住民への訴求</p> <p>ア ジュニアヨット教室【逗子市】</p> <p>イ ヨット乗船体験【葉山町】</p> <p>4 域内住民（健康志向・高齢者）への訴求</p> <p>ア (仮称)未病改善事業【三浦市】</p>

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果							
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
		目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人	3,663万人	※集計中
		実績(本市)	785万人	825万人	821万人	857万人	875万人
		本市の状況	<ul style="list-style-type: none"> 主に横須賀美術館の来園者数が増加し、前年度と比べて約5万人の増となった。また、基準年である2014年と比べると、大型遊具やキャンプ施設の設置などのリニューアルを行ったソレイユの丘への来園者数が増加した影響などにより、90万人(785万人→875万人)の増となっている。 				
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
		目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人	▲630人	※集計中
		実績(本市)	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人	▲1,352人	▲1,456人
		本市の状況	<ul style="list-style-type: none"> 基準年である2015年は、本市(▲1,785人)および三浦市(▲185)のみが社会減の状況であった。 本市においては、2019年についても依然として社会減が続いている状況だが、基準年である2015年と比べると、減少数が329人抑制(▲1,785人→▲1,456人)されており、結果として半島全体の目標達成に寄与している。 <p>※本市における2019年と2015年の増減内訳 転入 111人増 (2015: 12,815人→2019: 12,926人) 転出 218人減 (2015: 14,600人→2019: 14,382人)</p>				
KPI③	各種イベント参加者数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
		目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人	140,880人	※集計中
		実績(本市)	—	61人	33,107人	49,669人	88,369人
		本市の状況	<ul style="list-style-type: none"> 本指標における本市の対象事業は以下の2項目 (1)横須賀魅力体験モニターツアー等 参加者数 369人 (2)ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会 来場者数 約88,000人 特に、ウインドサーフィンワールドカップには多くの来場者があり、目標達成に大きく寄与している。 				

検証シート 2

			①地方創生推進交付金			
事業名	訪日外国人アクセス環境向上事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部観光課			
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する (3)①集客の促進と交流拠点の創出による市内消費の拡大			中柱	(3)	小柱 ①

事業内容 (交付金対象)	<p>三浦半島特有の米海軍横須賀基地(以下、「ベース」)関係者を含む外国人が、横須賀市をはじめとする三浦半島を自由に周遊し、活発に消費できる環境を整え、三浦半島全体をインバウンドに強い地域にする。</p> <p>それに向け、ベース関係者を含む外国人調査員(モニター)に三浦半島の地域資源を例示し、移動してもらい、周遊時の不安や地域資源の魅力等に関する意見を収集の上、課題抽出および分析を行う。</p> <p>併せて調査結果を用いた観光関連事業者に対する受入環境整備研修を開催し、外国人観光客の受入意識の啓発を図る。</p>					
-----------------	---	--	--	--	--	--

交付金対象事業費	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	総事業費
計画額	—	37,366,000 円	16,621,000 円	4,556,000 円	/	58,543,000 円
実績額	—	37,364,727 円	16,620,121 円	4,378,000 円		58,362,848 円

事業実績 (2019 年度)	<p>1. 訪日外国人向け Facebook ページ「YOKOSUKA TRAVEL GUIDE」の運営</p> <p>(1)実施機関 令和元年7月から令和2年3月末まで</p> <p>(2)掲載内容 イベント情報を中心とした観光情報を月4件掲載</p> <p>(3)広告記事 上記の観光情報の中から、特に外国人に人気の高い記事に対して広告配信を行った。</p> <p>2. 外国人旅行者向け実践型英語版ガイドブックの作成</p> <p>(1)掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の利用方法 ・モニターツアーの実施により確立された、モデルコース ・おすすめの観光スポットやグルメ、お土産など <p>YOKOSUKA TRAVEL GUIDE の運営事業者に掲載内容のディレクションを受けることで、見せたい情報の掲載から、外国人が求める情報の掲載に切り替えた。 また、より詳しい情報を得られるように2次元バーコードを用い、英語対応している関連WEBサイトへのリンクを促した。</p> <p>(2)掲載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を大きく載せるなど視覚に訴えかけるような掲載方法とした。 					
-------------------	---	--	--	--	--	--

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果							
	項目	年度	申請時	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770 万人	3,850 万人	3,930 万人	4,000 万人
		実績	3,690 万人	3,723 万人	3,661 万人	3,663 万人	(県で集計)
		実績(本市)	785 万人	825 万人	821 万人	857 万人	875 万人
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180 人	▲780 人	▲380 人	0 人
		実績	▲1,582 人	▲768 人	▲566 人	▲630 人	(県で集計)
		実績(本市)	▲1,785 人	▲1,266 人	▲1,112 人	▲1,352 人	▲1,456 人
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000 人	53,000 人	56,000 人	60,000 人
		実績	—	96,366 人	124,945 人	140,880 人	(県で集計)
		実績(本市)	—	61 人	33,107 人	49,669 人	88,369 人
KPI に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> 2018 年度に実施したモニターツアーを活用し、2つのモデルコースを設定した。 外国人旅行者向け実践型英語版ガイドブック作成をする際に活用し、市内の宿泊施設や観光施設に配架することで、宿泊者の周遊を促した。 Facebook ページでの情報発信の際に閲覧者のセグメントに合った情報を(一部)広告として配信することで効果的に情報を伝えることができた。(Facebook ページいいね数 6,536 件、リーチ数 2,578,055 件) 						
基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> Facebook ページを運営し、イベント情報等を発信し閲覧状況を調査することで、外国人の閲覧者が興味を持つコンテンツなどの傾向を把握することができ、更に効果的な配信を行うことで、市内の拠点の周知にある程度の効果があったと思われる。併せて、外国人の閲覧数が一定数あったことより、市内周遊の喚起につながったと思われる。 						
今後の方向性	2020 年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	<ul style="list-style-type: none"> 集客施設などに対して、多言語情報サイト「Guidoor」を活用した2次元バーコードの案内設置を促進する。2次元バーコードを読み込むことで施設紹介ができる機能を付加することで受入れ体制の充実を図る。 2019 年度に開設した Facebook ページ「YOKOSUKA TRAVEL GUIDE」を継続して情報発信を行う。 モデルコースの紹介などを紹介した英語版ガイドブックをベースとした外国語版HPの充実を図る。 反響の大きいイベントに対して、翻訳ボランティアを配置することで、イベント参加の外国人の不安を少なくできるように対応する。 			<ul style="list-style-type: none"> 多言語情報サイト「Guidoor」の掲載を充実することで、各観光施設に対し多言語案内を拡充します。 多言語情報サイト「Guidoor」の2次元バーコードを読み込んだスマートフォン OS から件数・国籍などを把握できるため、どこの国の方がどのようなコンテンツを好むなどの情報を得ることが可能となることを利用し、得た情報をもとに、ターゲット国に対するPR方法を検討し、精度の高い情報発信を行っていきます。 			

検証シート 3

①地方創生推進交付金

事業名	住むまち横須賀魅力体験・発信事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部企画課 (政策推進部都市魅力創造推進課) 都市部まちなみ景観課				
総合戦略 基本目標	2 定住を促す魅力的な都市環境をつくる			中柱	—	小柱	—

事業内容 (交付金対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、京浜急行、不動産業者等の民間事業者と協力し「住むまち」横須賀の魅力が体験できるツアーなどを実施。併せて横須賀の「住む」魅力を積極的にプロモーションし、市外へ情報を発信する。 ・また、住宅ストックの循環促進に向けた住まい活用フェアの開催や、空き家の利活用促進のための支援を行う。 					
交付金対象事業費	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	総事業費
計画額	—	32,784,000 円	15,663,000 円	18,162,000 円	/	66,609,000 円
実績額	—	26,592,329 円	15,663,262 円	13,209,635 円		55,465,226 円
事業実績 (2019 年度)	<p>1. 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <p>都市魅力を体感できるツアーの実施および各種媒体での多面的な情報発信を実施。加えて、新たな都市魅力の創出を目的として、音楽オーディションイベントを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀の魅力体感モニターツアーの実施(2回) ・交通機関を活用した情報発信(6回) ・FM ラジオを活用した CM などの情報発信及び連携したツアーの開催 ・コミュニティ紙を活用した情報発信(5回) ・メディアなどを対象としたプロモーションの実施(5回) ・横須賀から世界へ羽ばたく音楽アーティストを発掘するオーディションイベントの開催(観覧者 307 人、オーディション応募組数 144 組) <p>2. 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家所有者・管理者向け相談会の開催(3回) 相談会に寄せられた相談件数 31 件(会場：横須賀市役所正庁) 					

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770 万人	3,850 万人	3,930 万人	4,000 万人
		実績	3,690 万人	3,723 万人	3,661 万人	3,663 万人	(県で集計)
		実績(本市)	785 万人	825 万人	821 万人	857 万人	875 万人
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180 人	▲780 人	▲380 人	0 人
		実績	▲1,582 人	▲768 人	▲566 人	▲630 人	(県で集計)
		実績(本市)	▲1,785 人	▲1,266 人	▲1,112 人	▲1,352 人	▲1,456 人
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000 人	53,000 人	56,000 人	60,000 人
		実績	—	96,366 人	124,945 人	140,880 人	(県で集計)
		実績(本市)	—	61 人	33,107 人	49,669 人	88,369 人
KPI に対する効果	横須賀の魅力体感モニターツアーの参加者数、音楽オーディションイベントの観覧者数等計 369 人 [KPI③の内訳]						

<p>基本目標に対する効果</p>	<p>1. 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力体感モニターツアーの参加者アンケートでは、全体の8割が参加前と比べて本市に対するイメージが良くなったと回答しており、本市を「魅力的なまち」として意識化するという点においては一定の効果があった。 ・新たな都市魅力の創出を目指し実施した音楽オーディションイベントの優勝者の楽曲世界配信が、音楽レーベルから行われ、国内の音楽配信チャートで1位を獲得するなど、新たな都市魅力の浸透・周知に貢献した。 <p>2. 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅ストックの循環促進については、引き続き相談会を通じて、空き家所有者・管理者に対して中古住宅の流動化に向けた働きかけを行う機会を創出した。 	
<p>今後の方向性</p>	<p>2020年度の実施状況</p>	<p>今後の事業の進め方</p>
	<p>1. 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通広告やラジオでの発信、メディアを対象としたプロモーション、ウェブを活用した発信等、費用対効果の高いプロモーションについて、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて実施する。 <p>2. 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すでに7月に開催予定であった1回の相談会の中止を決定したため、2020年度中に2回開催の方向性で実施(6月現在)。 	<p>1. 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ状況下において、2021年に、どのような形での情報発信が効果的かを検討する。 ・また、コロナの影響による社会の様々な変化を積極的にとらえ、新たな都市魅力の創出を検討する。 <p>2. 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面は同様の形で相談会を継続する。

検証シート 4

			①地方創生推進交付金				
事業名	マリンスポーツによるまちづくり事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部企画課				
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する (3)②交流人口の拡大に向けた新たなプロジェクト等の推進			中柱	(3)	小柱 ②	
事業内容 (交付金対象)	ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会実行委員会への負担金						
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R02(2020)	総事業費	
計画額	10,000,000円	10,000,000円	15,000,000円	15,000,000円		50,000,000円	
実績額	10,000,000円	10,000,000円	15,000,000円	9,100,000円		44,100,000円	
事業実績 (2019年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・3回目となるウインドサーフィンワールドカップを開催し、約88,000人が来場した。 [大会日程 2019年5月10日～15日] ・2020年大会の開催準備を進めたが、新型コロナウイルスの影響もあり大会の開催を中止とした。 						
重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果							
	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
KPI①	三浦半島4市 1町における 入込観光客数	目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人	3,663万人	(県で集計)
		実績(本市)	785万人	825万人	821万人	857万人	875万人
KPI②	三浦半島4市 1町における 社会増減	目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人	▲630人	(県で集計)
		実績(本市)	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人	▲1,352人	▲1,456人
KPI③	各種イベント 参加者数	目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人	140,880人	(県で集計)
		実績(本市)	—	61人	33,107人	49,669人	88,369人
KPIに 対する効果	会場を三浦海岸まで拡大し、「OTODAMA SEA STUDIO」とタイアップした音楽フェスやフラのギネス挑戦、熱気球の体験搭乗など各種体験イベントの充実により、目標来場者数70,000人を大きく上回る約88,000人が来場した。[KPI③の内訳]						
基本目標に 対する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣ホテルが本格的リゾートホテルに全面リニューアルされた。 ・会場近隣にウインドサーファー仕様の賃貸マンション建設された。 ・大会の開催をきっかけに設立されたNPO団体を中心となり、県や事業者とともにビーチクリーンを実施した。 ・W杯とは異なる種目(フリースタイル)の全国大会を地元イベントと合わせて開催した。 ・大学ウインドサーフィン部による強化合宿が実施された。 						
今後の 方向性	2020年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年大会を4月に開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により開催を中止とした。(2020年大会では地元ホテルでの展示会や三浦側のボランティア新設など地元の協力を得ながらの運用を予定していた。) ・2021年大会では、大会のブランディングとデジタルマーケティング手法でのイメージ発信等により、大会自体がステータスアップとなる手法の活用を検討する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ状況下において2021年大会がどのような形で開催できるか検討し、感染対策を盛り込んだ開催準備等を行う。 ・地域のブランドイメージを向上させるとともにマリンスポーツの魅力発信につなげる。 			

検証シート 5

②地方創生拠点整備交付金

事業名	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業	担当部課	みなと振興部港湾管理課			
総合戦略基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する (3)②交流人口の拡大に向けた新たなプロジェクト等の推進			中柱	(3)	小柱 ②

事業目的	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施することにより、「スポーツのまちづくり」の一翼を担う施設としてその魅力を高め、横須賀市への集客促進、市内消費の拡大を図る。					
事業内容(交付金対象)	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施する。					
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R02(2020)	総事業費
計画額	—	50,393,000円	—	—	—	50,393,000円
実績額	—	50,050,440円	—	—	—	50,050,440円
事業実績(2017年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・セクション(ジャンプ台等の構造物)のリニューアル セクション 設置8基 改修1基 ・パーク床面リニューアル 全天候型舗装(アスファルト舗装改修) 3,467㎡ 					
事業実績(2018年度)	<p><大会> ・全日本フリースタイルスケートボード選手権 2018 (10月13日) ・KING OF FREESTYLE SKATEBOARD 2018 (10月20日)</p> <p><イベント> ・アメスカフェスタ in うみかぜ公園スポーツ広場 (5月20日) :スケートボード・BMX のデモンストレーション&初心者向け無料レッスンのほか、音楽や食、自衛隊等と連携した複合イベント</p> <p>・スポーツ広場ペイントイベント (11月27日) :地元ペイントアーティスト等によるスケートボードパークのセクションへのペイント</p>					
事業実績(2019年度)	<p><大会> ・関東アマチュアサーキット第1戦(4月7日) ・スケートボード・フラットランド大会(10月27日)</p> <p><イベント> ・スカルフェスタ(9月15日) :フラット/スケートボードのプレイヤーによる実演・競技の実施</p> <p>・BMX ダートコース新春交流会(1月5日) :うみかぜ公園 BMX 協議会のメンバー及びビジターによるイベント。キッズ向け乗り方教室やタイム測定会、ダートコースジャンプ実演の実施</p>					

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	R02(2020)
KPI①	観光客消費額	目標	—	—	434億円	458億円	482億円	506億円
		実績	386億円	588億円	390億円	452億円	444億円	
KPI②	うみかぜ公園 駐車場使用料 収入	目標	—	—	33,348千円	33,901千円	34,454千円	35,007千円
		実績	32,242千円	35,360千円	31,535千円	34,628千円	37,369千円	
KPI③	うみかぜ公園 来園者数	目標	—	—	224,143人	227,618人	231,093人	234,568人
		実績	217,193人	214,205人	195,859人	189,839人	195,221人	
KPIの 分析	<p>KPIの目標には達しなかったが、前年より5,000人ほど来園者数が増加した。 スポーツ広場には大きな影響はなかったが、台風15号の影響により、園内施設の一部が破損したため、一時うみかぜ公園全体の来園者数が減少したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、休校や屋内施設の利用制限の増加に伴い、3月のスポーツ広場利用者数が増加した。</p>							

基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の継続開催に加え、スケートボードや BMX 愛好家団体とビジターの交流拡大に向けたイベントが引き続き開催されている。 ・また、BMX ダートコース新春交流会での子供向けレッスンの開催など、愛好家・競技人口の拡大に向けた取り組みも行われている 	
今後の方向性	2020 年度の実施状況	今後の事業の進め方
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月10日よりスポーツ広場を閉鎖している。 ・5月に BMX の全国大会が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大が収束次第、イベントや大会の実施について検討したい。

検証シート 6

					③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）		
事業名	ドローン産業集積推進事業			担当部課	経済部創業・新産業支援課 (企業誘致・工業振興課)		
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する (1)①企業等の立地促進と産業集積 ②付加価値の高い製品・商品の創出支援			中柱	(1)	小柱	① ②
事業目的	市内の企業等に対して無償で飛行実験フィールドを提供することをはじめとして、ドローン関連技術や産業の研究・開発を促し、事業化を支援する。						
事業内容 (対象事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンフィールドの提供(長坂5丁目地内) ・企業等に対する研修の実施(座学・フィールドでの操作研修) ・モニターツアーの実施 事業化が期待できる企業等を中心としたドローンフィールド体験ツアーを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ドローン関連展示会等出展補助金の交付(補助率 2/3、限度額 30 万円) 						
対象事業費	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	総事業費	
計画額	5,562,000 円	7,675,000 円	6,627,000 円	6,627,000 円		26,491,000 円	
実績額	3,662,620 円	2,907,509 円	3,610,534 円	3,695,954 円		13,876,617 円	
事業実績 (2019 年度)	ドローンフィールド使用登録事業者数：35 社 ドローンフィールド使用許可回数：222 回 ドローン基礎研修の実施：11 月 26 日 参加者 10 名 (5 社) ドローンフィールド使用登録事業者意見交換会の実施：10 月 11 日 参加者 9 名 ”ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ”事業の一環として、企業が実施する猿島における一般利用者向けドローン配送の実証実験を支援						
重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果							
	項目	年度	申請時	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)
KPI①	フィールド使用 企業数	目標	—	70 社	80 社	90 社	100 社
		実績	0 社	26 社	235 社	419 社	222 社
KPI②	ドローンを活用し 事業展開する企業の 創業・新規進出数 (移転は除く)※累計	目標	—	1 社	2 社	3 社	5 社
		実績	0 社	1 社	1 社	1 社	1 社
KPI の 分析	KPI①：フィールド使用企業数は前年度に比べ減少したものの、KPI は達成した。なお、減少した要因は、高頻度で使用していた一部の事業者の使用頻度が少なくなった事が影響している。 KPI②：さまざまな産業分野でのドローンの活用が広がりを見せていることから、興味を持っている企業はあるものの、法規制や社会受容性の向上といった課題が多いことや、進出するためのコスト等、さまざまな課題を解決するための時間も必要となることから、実績につながらなかったと考えている。						
基本目標に 対する効果	効果を明確に示す指標などはないが、横須賀リサーチパークと共同で推進している”ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ”事業も連携することで、実証実験への地元企業の新規参画などの波及効果が表れている。						
今後の 方向性	2020 年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	事業開始後 3 年が経過しモニターツアーや展示会等出展補助金などは、利用が低迷していることから、期初の目的を達成したものと考え、見直しを実施した。 フィールド使用企業数は、一定数あるため、引き続き利用の促進をしていく。			<ul style="list-style-type: none"> ・飛行実験フィールドの提供を中心に、市内におけるドローン関連産業の活性化に継続的に取り組む。 ・また、引き続き”ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ”事業と並行して推進することで、企業等との連携体制をさらに深め、市内への事業展開・企業進出につなげていく。 ・今後も、本市の地域特性を生かした実証実験を積み重ね、技術開発の支援及び社会受容性の向上を図ることで、地域経済や雇用への波及効果を追求する。 			